

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫防除情報第 6 号

冬春果菜類の病害対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

冬春果菜類において、ウリ類黄化えそ病やトマト黄化葉巻病などのウイルス病の発生が見られます。初期防除を徹底しましょう。

- 1 作物名 冬春果菜類（キュウリ、ピーマン、トマト他）
- 2 病害虫名 ウリ類黄化えそ病（媒介虫：ミナミキイロアザミウマ）
トマト黄化葉巻病、ウリ類退緑黄化病（媒介虫：タバココナジラミ）

3 発生状況（経過）

- (1) ウリ類黄化えそ病（MYSV）
10月のキュウリの巡回調査において、ミナミキイロアザミウマの発生は確認されていないが、黄化えそ病の発生面積は本年を含む10年間で2番目、発病株率は本年を含む10年間で最も高い。
- (2) トマト黄化葉巻病（TYLCV）
10月の巡回調査において、タバココナジラミおよびトマト黄化葉巻病の発生は確認されていない。しかし、他の地域では黄化葉巻病の発生が目立つ地域が認められる。
- (3) ウリ類退緑黄化病（CCYV）
10月のキュウリの巡回調査において、本病の発生は認められていないが、タバココナジラミは発生面積率 37.5%（平年 61.4%）で平年よりやや少、百葉当たり虫数は 1.4 頭（平年 6.2 頭）で平年並となっている。
- (4) 向こう1か月の気温は、高い確率が60%であり、野外での増殖に好適な条件が続くことや、換気等で施設サイドや谷部が開放される時期が今後も継続することにより、施設外からアザミウマおよびタバココナジラミが施設内に侵入してくることが予想される。

4 防除上の注意

- (1) 生育初期の各種ウイルス病への感染は、大きな被害をもたらす恐れが高い。野外における各種媒介虫の活動が終息する11月下旬頃まで、定期的に殺虫剤を処理し、媒介虫の密度低減に努める。
- (2) 施設サイド及び谷部への0.4mm目合いの防虫ネット設置や施設周囲に光反射資材（少なくとも70cm幅以上）や障壁作物を設置し、施設への媒介虫の侵入を抑制する。
- (3) 施設内に有色粘着板を設置し、ミナミキイロアザミウマやコナジラミ類を捕殺する。
- (4) 雑草は、ミナミキイロアザミウマやコナジラミ類の生息・増殖場所となるため、施設内及びほ場周囲の除草を徹底する。特に暖房機の下や内サイドビニルと外ビニルの間などは見落としがちなので必ず除草を行う。
- (5) 発病株を確認した場合は、速やかに抜き取り、ビニル袋等に入れて完全に枯れるまで密封処理する。
- (6) 有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避する観点から、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を心がける。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
（病害虫防除・肥料検査センター）松浦・黒木
TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp